



日本林政ジャーナリストの会 令和5年度第6回研究会

「直近の鳥獣保護管理行政の動向と今後の展開」

～激甚化する野生鳥獣被害に対応する Wildlife Management の未来～

環境省自然環境局鳥獣保護管理室長 宇賀神知則氏

日時:令和6年3月12日(火) 15:00～17:00

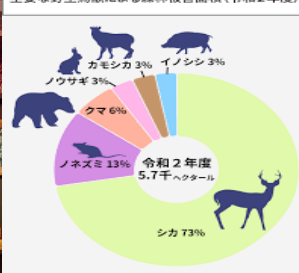
場所:林友ビル(東京都文京区後楽 1-7-12) 6F 中会議室

近年、野生鳥獣による森林被害面積は減少傾向にあるものの、依然として深刻な状況にあり、シカによる被害が全体の約7割を占めており、造林木の成長阻害や枯死、木材価格の低下、下層植生の消滅による土壌流出や生物多様性の損失などの悪影響を引き起こしています。森林に対する野生鳥獣対策としては、防護柵、防護テープや食害予防チューブの設置などに加えて、環境省と農林水産省は、2023年度までに2011年度比でシカの個体数を半減する目標を設定して捕獲に努めています。特に、野生鳥獣の保護管理を所管する環境省は、2014年に鳥獣保護法を改正して、指定管理鳥獣捕獲等事業や認定鳥獣捕獲等事業者に関する制度など、新たな仕組みを導入しましたが、その実施には、捕獲を担うハンターの減少・高齢化が進むなど大きな課題が山積しています。激甚化する野生鳥獣被害に対して、環境省はどのような施策を展開しようとしているのかについて、環境省の宇賀神知則鳥獣保護管理室長からお話を伺います。

参加希望の方は、氏名、所属及び連絡先をご記入のうえで、**令和6年3月1日までに**日本林政ジャーナリストの会幹事・事務局の上河潔 (k.kamikawa@live.jp) までお申し込みください。



主要な野生鳥獣による森林被害面積(令和2年度)



宇賀神知則氏

1971年東京都生まれ、1995年筑波大学大学院環境科学研究科修了後に環境庁入庁、2011年関東地方環境事務所日光自然環境事務所長、2015年東北地方環境事務所中間貯蔵施設浜通り事務所長、2016年中国四国地方環境事務所高松事務所長、2019年環境省新宿御苑管理事務所長、2021年環境省沖縄奄美自然環境事務所長、2023年環境省自然環境局鳥獣保護管理室長